

仏像の分類に関する研究

2005MM001 秋月良康

指導教員：松田眞一

1 はじめに

日本の国宝、重要文化財の彫刻部門で大多数をしめる仏像、この仏像の国宝と重要文化財の違いはどのようなものなのかを研究し、そして、今後どのような仏像が国宝に指定されるかを予測したい。

2 データについて

国宝と重要文化財の総数は文化庁のデータベースに載っているのを使用し解析に使うデータのアイテムはweb[1][3][4]で集めた。

国宝には1960年代までに選ばれたものと1990年以降に選ばれたものがある。前者を古い国宝、後者を新しい国宝とする。

集まったデータは古い国宝 95個、新しい国宝 6個、重要文化財 267個である。

アイテムは、光背の有無、仏像の姿勢、仏像の位、製作された時代、仏像の大きさ、仏像の手形、仏像の素材、製作者または製作命令者がわかっているか、損傷の有無の9種類である。

2.1 国宝・重要文化財の定義

国宝・重要文化財は文化財保護法第二十七条に定義されている。

3 解析方法

解析方法は、数量化II類とクラスター分析を使用した。数量化II類は駒沢[3]を参照した。

4 2分類の解析結果

まず国宝と重要文化財で数量化II類を行った結果は表1である。相関比は0.4904でこの結果を信用するには十分といえる。

外的基準は国宝が負の数値になっており、重要文化財は正の数値になっていることから、負の数値に傾いているほど国宝に選ばれやすいものである偏相関は5・仏像の大きさが一番効いており、次に4・製作された年代が効いていて次いで7・仏像の素材、6・仏像の手形、となっている。

次に表2をみると、仏像の大きさでは、大きいものほど負の数値になっており、このことから大きいものほど国宝に選ばれやすいといえる。

次に4・製作された年代は古いものほど負の数値になっており、これは古いものほど歴史的価値があるということである。

7・仏像の素材ではE・板彫り、F・木心乾漆、C・塑造の順に負の数値でも特に高くなっており国宝に選ばれやすく、A・石、J・金銅の順に正の数値でも特に高くなって

表1 2分類の数量化II類の結果

相関比	0.4904
外的基準	国宝 -1.1386
	重要文化財 0.4307
アイテム	偏相関
製作された年代	0.4146
仏像の大きさ	0.4274
仏像の手形	0.3581
仏像の素材	0.3660

表2 2分類の数量化II類のスコアの結果

アイテム	カテゴリー	スコア
製作された年代	飛鳥時代	-1.2911
	白鳳時代	-1.3544
	不明	0.5321
	室町時代	0.4780
仏像の大きさ	0cm~80cm	0.4774
	251cm~300cm	-0.8988
	301cm~400cm	-1.0099
	400cm~	-0.7433
	不明	0.7918
仏像の手形	施無畏印と与願印	-0.5618
	弥陀定印	-0.5336
	与願印	1.2301
	屈臂仰掌	2.1444
仏像の素材	石	1.1048
	板彫り	-2.3699
	木心乾漆	-1.1397
	金銅	1.0489

おり国宝に選ばれにくくなっている。

6・仏像の手形では、B・施無畏印(右手)与願印(左手)、D・弥陀定印、A・蓮華合掌印の順に負の数値で高くなっており、逆にL・屈臂仰掌、K・与願印は正の数値で高くなっている。

このことから解析結果で1番と2番だった5・仏像の大きさと4・製作された年代からは古くて大きいものは歴史的価値があり国宝に選ばれるという今回の解析をしなくても明らかになるが3番目と4番目の7・仏像の素材、6・仏像の手形は今回の解析結果から分かったことといえる。

5 3分類の解析結果

次に古い国宝と新しい国宝、重要文化財の3つを数量化II類で解析した。まず1軸目は表3より相関比は0.5100であり十分といえる。

表3 3分類の数量化II類の結果

相関比		0.5100	0.1978
外的基準	古い国宝	1.2099	0.0252
	重要文化財	-0.4252	0.0685
	新しい国宝	-0.2357	-3.4520
アイテム	偏相関	偏相関	
仏像の位	0.1808	0.1772	
製作された年代	0.4453	0.1451	
仏像の大きさ	0.4228	0.3425	
仏像の手の形	0.3441	0.2542	

表4 3分類の数量化II類のスコアの結果

アイテム	カテゴリー	スコア	スコア
仏像の位	如来	0.0390	0.8256
	多種	0.0238	-0.5015
製作年代	白鳳時代	1.4364	0.4001
	平安時代	-0.1221	-0.2979
	唐	1.4397	1.2607
大きさ	101 ~ 150cm	0.0369	0.3683
	201cm ~ 250cm	0.7653	0.3257
	251cm ~ 300cm	0.3790	-3.2947
	不明	-0.7038	0.6089
手の形	施無畏印と与願印	0.4362	-0.8230
	禅定印(法界定印)	-0.6007	-1.7471
	与願印	-1.1162	0.8050
	屈臂仰掌	-2.0705	0.6303
	降三世印	-0.1135	3.6916

外的基準は古い国宝が1.2099で、正の数値になっており、新しい国宝と重要文化財は-0.2357と-0.4252で共に負の数値になっていることから、正の数値に傾いているほど古い国宝に近いもので負に傾むきすぎているものは重要文化財どまりのものである。よってこの軸を、古い国宝と重要文化財の違いの軸とする。

1軸目の結果は国宝と重要文化財を数量化II類で解析した結果と仏像の大きさと製作された年代が入れ替わっているだけで他はほとんど変わらないので省略する。

次に第2軸目は表3より相関比は0.1978である、かなり低い第2軸目であることを考慮する。

外的基準は新しい国宝が-3.4520で負の数値になっており、古い国宝と重要文化財が0.0252、0.0685で正の数値になっている。このことからこの軸は新しい国宝と重要文化財の違いの軸とする。

偏相関は仏像の手の形が一番に効いており、次に仏像の大きさが効いて、次いで仏像の年代、仏像の位が効いている。

まず、仏像の手の形は、F・禅定印(法界定印)、B・施無畏印と与願印の順に負の数値で高くなっており、逆にM・降三世印、K・与願印、L・屈臂仰掌の順に正の数値で高くなっている

次に、5・仏像の大きさは、F・251cm~300cmが負の数

値で高くなっており、逆にI・不明、C・101cm~150cm、E・201cm~250cm、の順に正の数値で高くなっている。仏像の年代では、D・平安時代のみが負の数値をとっており、逆にF・唐の時代が正の数値で特に高くなっている。仏像の位ではE・多種が負の数値で高くなっており、逆にA・如来だけが正の数値である。

仏像の大きさでは、G・301cm~400cmやH・400cm~の仏像は古い国宝で選ばれており、そのため次に大きいF・251cm~300cmが新しい国宝では効いているのではないかと考察できる。製作された年代では新しい国宝は全て平安時代のものであるため、この結果になったと考察できる。仏像の位では新しい国宝の半分が仏像群であるためこの結果になったといえる。

総括すると古く大きいものは大抵が如来であり、それらは歴史的価値が高いというのは昔から変わらない見解であるため、早期に国宝に指定されていて、それらに次いでそこそこに古い平安時代の仏像で歴史的価値があるものを新しい国宝として指定しているといえるのである。

6 クラスタ分析の解析結果

数量化II類のサンプルスコアをクラスタ分析でかけた結果は3つの群に分けることができた。この3つの群を平安時代の中くらいの大きさの群、古い年代の群、小さい仏像の群とする。

平安時代の中くらいの大きさの群の仏像は近年の国宝指定に近い仏像であるため今後国宝に指定される可能性が高い。

古い年代の群の仏像は古い国宝に近いので国宝に選ばれる可能性がある。

小さい仏像の群は国宝に選ばれる可能性はほとんどない。

7 今後の予測

解析結果から今後選ばれる可能性のある仏像を紹介する。2分類での場合、1番サンプルスコアが国宝に近かったのは木造金剛二力士立像(伝運慶作)(所在・萬満寺)である。3分類での場合、1軸目で1番サンプルスコアが高かったのは、銅像薬師如来坐像(所在・龍角寺)である。2軸目で1番サンプルスコアが高かったのは木造大日如来坐像(円照寺)である。

8 おわりに

今回の解析で国宝と重要文化財の違いがわかった。また、今後国宝に選ばれるであろうものを予測できた。

参考文献

- [1] 国宝・重要文化財を保持している寺院・施設等のwebサイト.
- [2] 駒沢 勉:『数量化理論とデータ処理』,朝倉書店出版,1982.
- [3] 『文化庁インターネットホームページ』 : <http://www.bunka.go.jp/index.html>.
- [4] 法庫:<http://www.houko.com/00/01/S25/214.HTM>